

2026年度（令和8年度）

第1回福山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 議事概要

1. 日時等

日時：2026年（令和8年）5月26日（火）18：30～19：40

場所：福山市役所本庁舎3階 大会議室（Zoomとの併用）

2. 出席者

委員：野口啓示分科会長、池上文夫委員、岡田昭彦副分科会長、小林貞子委員、齋藤洋委員、佐藤裕幸委員、関知恵子委員、長谷川貴一委員、早川裕美委員、藤井睦弘委員、柳澤尚志委員、吉田耕平委員
（Zoom）橋本敬治委員、服部愛実委員

事務局：保健福祉局長、ネウボラ推進部長、ネウボラ推進部保育担当部長、福祉総務課長、障がい福祉課長、障がい福祉課福祉サービス担当課長、保健予防課長、健康推進課長、みらい世代育成課長、未来館設置準備室長、ネウボラ推進課長、ネウボラ推進課こども・若者応援担当課長、保育施設課長、保育指導課長、保育指導課保育支援担当課長、まちづくり推進課長、多様性社会推進課長、学事課長、教育推進課長、産業振興課長、産業振興課雇用労働担当課長

3. 欠席者

委員：田丸誠委員、中居寛美委員、三木智恵委員、山川直人委員

4. 報告について

委員18人中14人の出席により定足数を満たしていることから、本専門分科会が成立していることを報告した。

5. 議事

(1)「福山市こども計画（第2期福山市ネウボラ事業計画）」の実施状況について

事務局から資料1による説明後、質疑応答を行った。主な質疑応答の内容は次のとおり。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
<p>市内では地域子育て支援拠点事業を実施しているが、「保護者の子育てが地域で支えられている」と思う人の割合を増加させるために、特に大事に思っていることはあるか。</p>	<p>価値観の変化等により地域の繋がりが希薄化している中、地域の保育事業者や住民等と子育てを支えていくことは重要だと考えている。地域子育て支援拠点事業の情報発信も取り組むなど、地域全体で子育てをしていく意識醸成を図りたい。</p>
<p>ネウボラセンターにおける若者の相談は、保護者からの相談もあるか。</p>	<p>保護者からの相談もある。主な相談内容としては、こどものひきこもりや進路の相談、社会に出ていくに当たっての支援などである。</p>
<p>就学援助制度について、対象者は小中学生のみか。対象を高校生まで広げていいのではないか。また認定者数は増加傾向か減少傾向か。</p>	<p>現在は小中学生を対象に、申請に基づき収入等の条件を満たしているか確認し、認定している。対象の拡大については市だけで対応するのは難しいが、市で実施している様々な事業を活用し、こどもの学びの機会を確保することに努める。認定者数の増減傾向については別途回答する。（※）</p>
<p>こども計画において目標に対して実績が下回っている事業や、実績が確保方策を上回っている事業が見られるが、各部署ではどのような課題を認識しているか。特に課題を抱えている分野などあるか。</p>	<p>現時点では、特に課題が顕著な分野があるとは認識していない。各年度の数値増減等の要因を分析し、関連事業を改善しながら計画期間5年間の評価をしていきたい。なお、「福山市こども計画」では前計画になかった若者支援の分野を加えている。こうした新しい分野にもより一層注力していく必要がある。</p>
<p>来年度から実施予定の5歳児健康診査の実績も今後掲載されるか。また5歳児健康診査の受診率について、今の想定ではどのくらいの数値を目標値とする予定か。</p>	<p>5歳児健康診査は来年度から実施する予定なので、来年度の実績は再来年度に報告する予定である。受診率は100%を目指して実施していきたいと考えている。実施方法等も含め関係者と協議していく。</p>
<p>福山市こども計画に記載のある小中学生アンケートの結果として、希望する福山市の将来像について「スポーツや遊びなど、いろいろな体験ができるまち」と約60%のこどもが回答しているが、2025年度の実施状況には体験の推進についてあまり書</p>	<p>報告資料では、こども計画に記載している施策ごとの主な取組に関連する事業について報告している。多様な遊びや体験活動については、報告書記載の放課後子ども教室等を実施しており、地域とのつながりの中で様々な体験を通じて成長できる</p>

かれていないように感じる。	機会を設けている。
---------------	-----------

※ 回答内容

就学援助制度における認定者数については、こどもの数が減少していることから減少傾向であるが、市立小中学校における児童生徒数に占める認定者数の割合は14%前後であり大きな変化はない。

(2) ネウボラセンターについて

事務局から資料2による説明後、質疑応答を行った。

質疑・提案 (委員)	応答 (事務局)
福山市の若者のひきこもり、不登校者数はどのくらいか。	ひきこもりについては、2020年1月にひきこもり相談窓口を開設して、2025年3月までに639人の相談があった。不登校者数については、2024年度は小中学生合わせて約1,500人で、やや増加傾向にある。
ユースセンターふらっとについて ① 利用者数は、延べ人数ではなく実人数ではどのくらいの利用があるか。 1人が複数回利用することはあるか。 ② 予約制か。 ③ どの時間帯での利用が多いか。 ④ 小学生の利用はあるか。 ⑤ 天満屋福山店内に設置して良かった点・悪かった点があれば教えていただきたい。	① 本年の4月18日に開設し、5月17日までの約1か月で利用登録が599人、利用者が1,083人であるため、2回程度利用している人がいることが見受けられる。 ② 予約制ではないが、初回利用時に利用登録をお願いしている。 ③ 中高生が放課後の15時から18時頃に、平均して2時間程度利用するケースが多くみられる。 ④ 小学生は保護者同伴としており、中高生に比べると利用は少ない。 ⑤ 駅前に立地しており、周辺部からもアクセスが良く利用しやすいと好評をいただいている。一方で、社会参加に不安を抱えている方も利用しやすい環境となっているかなどについては、引き続き検証・整理を行いながら、より利用しやすい施設となるよう充実に努めていく。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールについて説明を行った。